

兵庫県立がんセンター

腫瘍循環器科

指導担当医（役職）

野中 顕子（腫瘍循環器科部長）

実習概要

実習コース

2週間コース

概要

腫瘍循環器医が併診している患者さんの診療見学を中心とした実習を考えています。外来診療見学・入院患者の往診の同行です。

循環器検査（心エコー、心筋シンチ、心臓MRI）は、予定があれば見学をしていただけます。

主科（がん治療科）の主治医からダイレクトにPHSで診療依頼が入ることも多く、臨機応変という実際も体験していただけたらと思います。

実習スケジュール

- ・月～金 基本的には午前・午後とも外来診療見学・病棟往診
(火曜日午前は心エコー見学・水曜午前は心筋シンチ検査見学)
- ・夕方以降で、心エコー検査所見および下肢静脈エコー所見確認、要読影心電図の所見付けの見学、異常所見のある際の対処法の説明
- ・心血管疾患合併のために入院した患者さんもしくはがん治療中の入院患者さんで心血管疾患治療が必要なために腫瘍循環器が併診している患者さんを担当し、病棟往診する際に同行し、担当した期間の病状経過についてプレゼンする。

学生へのメッセージ

腫瘍循環器科では、がん患者さんの循環器疾患に対する診療をおこなっています。

高齢化社会に伴いがん疾患も循環器疾患も増加傾向であり、がん発症時にすでに循環器疾患を合併している高齢の患者さんが増加してきています。

また、がん医療の飛躍的な向上によりがんの生命予後が改善したため増加しているがんサバイバーが循環器疾患を発症しやすいことも最近の問題視されており、特にがんの予後の良いがん種に関してはいかに合併循環器疾患を予防するのかという点にも気をつけていかなければいけない時代となっています。

がん治療で使用される抗がん剤や分子標的薬の一部および免疫チェックポイント阻害剤で心血管合併症が起こることもあるため、心血管リスクの評価・リスクコントロール、それでも心血管疾患を発症した場合はいかに早期発見して重症化を防ぐかということの主科（がん治療科）とその都度連絡をとりながらがん患者さんの治療に携わっています。

一般的な循環器内科と異なりがん患者さんのみを対象とした診療で、他県でも当院でもがんセンターでは心臓カテーテル検査ができない、ペースメーカー植え込み術を施行できないという病院がほとんどではありますが、がん患者さんが合併・発症する心血管疾患の種類は一般循環器疾患と同じですので、まずは一般循環器疾患の一通りの知識・経験が求められます。

それに加えてがん治療薬関連の心血管疾患もあるため、使用されるがん治療薬（どんどん新しいがん治療薬が出てくるので次は何だといつもびびっています）に関する知識もある程度は望まれます。心臓カテーテル治療で緊急呼出されるというような忙しさはありませんが、知識のアップデートがなにしろ忙しいです。

一方でそれ以上に、がんと共に生きる患者さんが持つ人生観に寄り添うことも大切ですし、正解は一つではない分野であるとも感じています。

このように縁の下の力持ち的な科ですが、目の前の患者さんはおそらく将来の自分や家族の姿であろうと感じながらの診療であり、試行錯誤しながらもやりがいのある分野だと思っています。